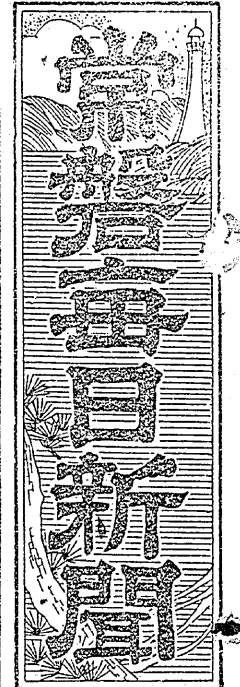


刊夕日二十月二十



定額一圓金紙... 印刷所 常磐會新新聞社

一〇〇〇哩を

驅けて

清交會 登良夫生

(終)

右折して遂に正面御陵を拜す、一塵半芥の影を止めず...

らひは盡きざる、十時半郷土の土を踏み、強雨を衝いて十一月の晩平を驅つて...

常磐會藝

磐城舞子

飯村 閑舟

磐城舞子よ 松なみ靡く 海にやカモメの...

【書】つくし揚ーかながし ら つくし揚げ 天 然酢

の移つたれば景は轉じ目は常に新らしく嬉嬉談笑は續けられ制禦さる何等の規法なく...

海は夜がらす 啼いてはカアと 笑つてはカアと...

貸切の...

御用命は!!!

獅子吼(四四九ノ勢) マツサキ 眞先ニ... (マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

咽喉専門

入院 應需 平町田町七〇番地 山内醫院 醫學士 山内亨吉 電話六九一

ビノサン

鼻病、腦病 化學治療薬 小壹圓貳拾錢、中貳圓、大五圓...

村山書店

石城郡特約店 販賣御希望の方特に御相談に應ず

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

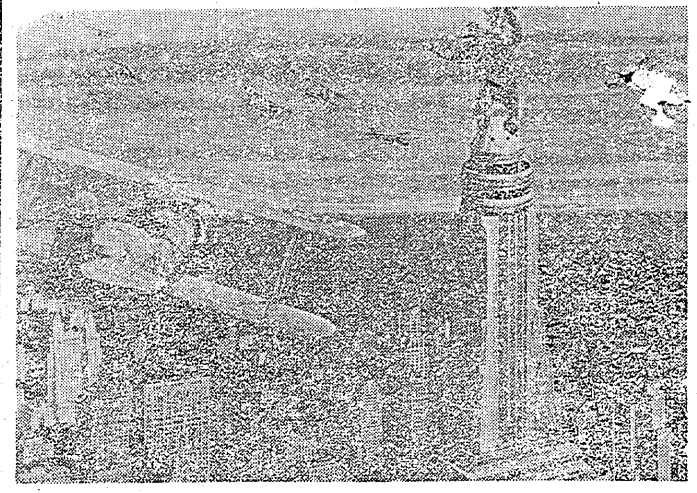
喜多流 謠曲 仕舞 白土會 平町六九 電話一二七番

◇詳細は本會へ御問合せ下さい。

愈々公開 十四日ヨリ

十二世の驚異映畫 全發聲 関コ

毎日 平館 晝夜



藤寅考案の

殿中揚

一般御家庭御惣菜用おでん。鍋焼の材料に最適な美味食品。一本三錢是非御試食を乞ふ。

平町一丁目

お惣菜用 さつま揚 吉原揚 藤寅 電話一四一番

内科、小兒科、花柳病科

藤沼醫院

入院應需 平町紺屋町 電話五〇七番

平陽女學校長に 土地明渡しの訴訟

平町逐ひに腹を極めて

昨日の町會上提可決

昨日の町會で田町九番地百廿八坪(現在マーケット)の町有地借地人酒井平陽女學校長に對して土地明渡しの訴訟を平町が提起する事に決定した、同町有地は一時拂下げの事となり同校長と松月堂主金子重次氏とが互ひに譲受方を競争して價格を一萬圓以上にセリ上げ結局晚み合ひの物別れとなつたが其後松月堂主が

棄權し改めて酒井氏側から八千五百圓で譲渡されたしとの申出がり實際の金主は勿來町の安島久氏であるとの事に土木委員側から吉村、松崎、會川の三氏を交渉委員に擧げて金主安島氏に地價の折衝に移つた處今度は

八千圓以上はビター文も出せぬとの挨拶に町の財政難を見すかして餘りに付け入る仕打ちと憤慨し此旨を土木委員に報告の結果此の上は一般入札に附する外はないが夫れには邪魔物の建物を撤去せねばならぬと訴訟の腹を極めてに至り町會上提可決を見たのであつて来る

廿日迄に酒井氏側から相當買收價格の申出がない場合は直ちに訴訟の手續を運ぶ事になつて居る

古川改修の 促進を迫る

青沼町長始め 平町から出縣

平町では明年度匡救事業として工費廿五萬圓を投じ夏井川工事の附帯事業として古川の改修工事を申請中であつたが縣の設計案が二通もあつて何れに決すべきか立案未定の爲め明年度工事の編入を逸する懼れあつて

防犯運動に 全署員協力

期間中の猛警戒

平警察署では来る十五日より廿一日迄催される防犯運動の實施に就いて協議の結果期間中は既記の如く全署員を擧げて晝夜の特別警戒を行ふ外ポスタービラを全管内の主要地に掲示して一般家庭に自警思想の普及

初貯藏獎勵協議

助成施設を縣より指示

置△奸商に對する注意△現金の取扱△失業者浮浪者の注意

既報本縣主催郡下各町村の初貯藏獎勵協議會は本十二日午前十時より團體事務所樓上に開會縣廳の小林農林主事、廣岡農林技手臨席各町村農業技術員信用組合役員等七十餘名が出席左記縣の提出事項を協議した

- 一、初貯藏獎勵に關する件
- 一、米穀貯藏獎勵規程並米穀貯藏獎勵要領に關する件
- 一、九年四月以後に於ける助成施設に關する件
- 一、初貯藏に關する低利資金融通に關する件
- 一、初貯藏の方法に關する件
- 一、農業倉庫機能擴張に關する件
- 一、貯藏取扱に關する件
- 一、見廻監督に關する件

木炭製法

長期講習會

川前村では来る十五日より明年二月十四日迄の長期に亘つて縣山林課の大竹技師を招き同村小學校で木炭の製法講習會を催すと

進學懇談

父兄を招いて

平第二小學校では既報の如く本日午後一時より來春三月卒業する尋常科及び高等科兒童の父兄を招き懇談會を催し上級學校入學問題並に就職問題に就いて種々協議した

平町區長決定

平町材木町區長瀨富彌 月見

町道認定

平町の二線路

今回平町番植小路から揚土に續く學校登り道及び杉平から磐女前に通ずる道路は共に町道に認定する事となつた

長柳流 舞踊

御稽古をおすめ致します

花柳舞踊流 研究會 花柳德三郎 杵屋十茂代

吸入用酸素

純度 99%

度量器
モノサシ
マ
ス
ハカリ
器量計
寒暖計

關内藥局

電話四〇番

時計ト蓄音器!

東京音頭 市勝太郎
千鳥格子 勝太郎
丹下左膳 三吉
其他流行唄各種入荷致しました。

金光堂

電・一九五

全外科

醫學博士 渡部義夫

小兒科

女 醫渡部きい子

渡部外科

入院應需

時代は人物を要求 情實運動は駄目だ

卒業生の賣り込みから 歸つた矢野平商校長談

既報平商業學校長矢野泰次郎氏が過般上京一週間に亘り來春三月の

の後は生徒の腕次第で採否を決せられる譯で矢野校長は左の如く語つた

卒業生 賣り込みに就いて

種々運動した効を奏し此の程三井物産、川崎貯蓄、安田銀行、古河電機鑛業、松坂屋、高島屋、日本晝夜銀行、明治製菓、松屋、日本興業銀行、帝國生命及び地元の入山、磐炭、古河、福島炭礦等より夫々選衡すべき旨の

回答に接したので此

最高點の

村議失格

選舉違反事件が大審院で棄却に

既報去る七月二十九日平區才判所に於いて關口判事より村會議員選舉違反とし罰金八十圓を言渡された警崎村最高點の村會議員當選者吉田直文(三)氏は控訴申立も原審通り言渡されたので更に大審院に上告中の處此程申立棄却となり遂に村會議員は失格となつた

理髮衛生

平署で講習

平、四倉、植田、富岡、小野新町各署管内理髮業者の衛生講習會は本十二日より三日間平署會議室に開催されたが講師は縣衛生課の綠川警部補外四名である

列車衝突

罰金を求刑

既報内郷村大字綴字秋山三四自動車運轉手小野伸藏(三)が去る九月四日午後十時三十分頃乗合自動車運轉し平より上好間に向て疾走中久保町磐越線踏切に於

地下より

雷管を多數發掘

何者の仕業か其筋で嚴探

内郷村字綴大工職新田定藏(三)は去る九日同村地内に家屋新築の爲め地均工事中地下より雷管二十三箇を發掘驚いて早速平署へ届出たが何者か埋没隠匿して置いたものらしく其節で嚴探中

老ひの病苦に...

此の世を見限る

火葬場附近に縊首屍體

湯本町入山四坑東十四號居住草野村生れ松本佃次(七)は昨十二日午前十時頃同町傾城地内火葬場附近山林で縊死したのを火葬場番人が發見平署に届出たが原因は

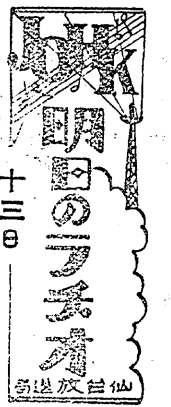
老ひの身の病苦を悲愾した結果である

小名濱の愛婦

濱町愛國婦人會では豫てより役員總出にて會員募集中の處既に特別會員百名通常

裁判所より

▽双葉郡川内村大字下川内字原七雜貨商清水惣作(五)は去月十五日頃より二十三日迄の間數回に亘り同村地内山林に於いて箱ヲナを使



明日のラジオ
天の晴曇半す
の風晴曇半す

明日の部

- 前七、〇〇 基礎英語講座 (四十) 岡倉由三郎
- 前九、一〇 料理献立
- 前一〇、三〇 家庭メソ
- 前一〇、三五 家庭講座
- 後二、〇〇 五洲洲より
- 後二、〇〇 家庭大學講座
- 人間修養としてのブルタ
- 科閉居の夢」中村歌右衛門外大勢
- 後五、〇〇 東北民俗行事講座第三講「歳の市の話」三原良吉

氣象通報 番組

- 後五、三五 受験講座「代數」松村定次郎
- 後六、〇〇 (子供の時間) お話「湖はどうして出来たか」中村道太郎
- 後六、二五 ことばの講座「外人の國語研究」東條操
- 後七、三〇 經濟座談會「國際經濟の動きと日本」司會者 大阪朝日新聞社 飯島幡司外
- 後八、四〇 義太夫「假名手本忠臣蔵」(第九日) 十段目

平職業紹介所報告

- 回人を求める方
- △自動車助手 二十三元
- 尋卒 月十五圓 (小名濱町某)
- △米穀店雑夫 二十四以下
- 尋卒 給料面談(平町某)
- ▽水配達 三十才 月十圓 (平町某)
- △雜役 二十五以下 月十圓外面談(江名町某)
- 回職を求める方
- △事務員 二十一才 佑賢
- 卒 給料面談(好間村某)
- △女中 四十七才 無學

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

- 平町南町 電一〇七
- 給料面談(平町某)
- ▽配達夫 二十二才 商卒
- 給料面談(平町某)
- △料理人 廿四才 尋卒
- 給料面談(湯本町某)
- △給仕 十四才 中學一修
- 給料面談(平町某)

銘劍秘笈

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第一百十二回

德川家に崇る村正

妻子の情に迷ふ

築山御前は御自分が眉を焦くほどの憂ひになりまし
たから八月二十五日に至る
と岡崎をば心元なく立出で
られて或は甲州の地へでも
立退いて武田兵部之丞と云
ふが、勝頼の周旋で再縁を
しやうと思ふ其方へでも赴
く心算でありますか、然
る處此方は多くの武士家康
の御下知なりといふので對
手に向ひましたるは徳川家
の御旗本野中三五郎重政、
此の三五郎は築山が三州岡
崎を彷徨ひ出でたるこそ幸
ひ、寧その事途中に於て築
山を討取り首に致して參れ
と云ふ仰せを蒙りましたか
ら三五郎長まりましたと直
様己に附屬して奥山、中
根、白岩など云へる強勇の
者を従へ三州岡崎の城下小
簀村と云ふ處に待受けて築
山殿が一人の侍女を連れ何
處を的となく彷徨つてゐる
處を

三「濱松殿の上意でござる
お覺悟あつて然るべく候」
と云ふが早いか忍ちの間
に侍女を追ひ拂ひまして、
周章狼狽逃げやうとする築
山殿の襟首を掻き掴んで、
倒し野中三五郎が頭になつ

て遂に築山御前をば此處に
於て討果し、其首級を首桶
へ入れ早々之を濱松へ送り
ました、家康公は丁度西尾
へ御出定でありましたから
此事は届け書を御覽遊ばし



たまでの事でありませす、ソ
コで御死骸と御首級とを一
ツに纏めて濱松の西來寺と
云ふ寺院へ葬りました、御
法號は西光院殿清岩秀貞大
姉、後に延寶六年百回遠忌
に當つて寺領をも御遣しに
なり築山殿の御法号を清地
院殿と改められました、御
心得違とは云ひながら高

の御身にして斯の如きお最
期を遂げると云ふは實に殘
念の次第でございます、此
事を家康公屈書に依つて御
一覽遊ばされ、尙又其時の
次第をばお聞取りになりま
して

もなく髻を切つて己の故郷
遠州堀江村へ蟄居いたし世
涯世捨人になつたと云ふ、
既に築山御前の身方は斯
の如くでございます、此後
は次郎三郎信康公の御身の
上、平岩七之助親吉は始終
信康公のお附を致して居り
ますから一層心元なく思ひ
濱松へも七之助が參つて御
前体を繕ひ尙又家康公が西
尾に在らせられるといふこと
を承はりて西尾へ參り、
七「信康公の御身分に御企
てがあるといふは世の誤り
たる噂にて、更々斯様なる
お覺えなし聽て明白する時
節も之有るべく兎に角御親
子の間柄の事、何の御恨み
あつて斯かる御企てを致し
ませうぞ、正し讒者の舌頭
に依る處と私は考へまする
何卒御助命あらせられて然
るべし」

れながら御親子の間柄でこ
ざいますから何とか御計
らひを願ひまする」
と七之助親吉尙も執成を
致しましたが家康公三度目
に相成ると
家「親吉其方信康の身を思
ひ又予の胸中を推察いたし
て呉れるは誠に忝ない次第
である、が去りながら今亂
世にして大國の間に介まる
徳川頼む處に偏に織田信長
殿あるのみ其の織田殿の疑
ひを蒙る時は國家の一大事
である」

討取らずとも臣下たる者宜
しく主従の好誼を思ひ意見
いたして尼ともなし、何方
へか落して遣はしてよさそ
うなものであるが端たなく
討果したは無慘の事である
南無阿彌陀佛」
と御口から念佛をお唱へ
になりました、野中三五郎
其事を承はり今更面目次第

と再三再四己の身に引受
けて親吉は執成を致しまし
たが家康公の仰せには
家「親吉、其方一人が身に
引受けて命乞を致すが事小
なりと雖も岡崎次郎三郎は
織田信長の思召にも叶はず
謀叛人ではないと飽までも
言張るか知らんが餘人は兎
も角謀叛人であるから信康
は免す譯に相成らず、之を
猶豫いたすに於ては家康も
共に信長に欺ひを被る事に
も相成る、親吉宜しく推察
を致して呉れ」

平岩七之助も頭を下げて
七「恐れ入りましてござい
ます、若君の爲に君の御尊
體にも係はるやうな事に相
成つては一大事なれども恐

御用命は印刷物の
常警日印刷總社
電話三六〇番

別仕立コート
今秋冬の尖端
自然美を機に上せて
織なせる卓越せる生地
を念入りに仕立しました

三井呉服店
電話 384

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

ほしやなぎ
いかの鹽から
鱈魚の子

魚問屋
最優最大日本生命平代理店
志賀盛榮
平四丁目(電話二一三)